

【Jミルクからのお知らせ】

**東京栄養サミットを前に 第一線の専門家招きウェビナー
日本人の“いま”の食生活を SDGs 観点で解説！
「日本の『持続可能で健康な食』を考える」**

2021年11月30日（火）15:00～17:30 予定

登壇者:中村 丁次氏（神奈川県立保健福祉大学学長）
齋藤 忠夫氏（東北大学名誉教授）
日比 絵里子氏（FAO 駐日連絡事務所所長）
澤田 典絵氏（国立がん研究センター社会と健康研究センター室長） 他
モデレーター:井出 留美氏（食品ロス問題ジャーナリスト）

Jミルクは11月30日（火）午後3時から、「日本の『持続可能で健康な食』を考える」と題したウェビナーを開催いたします。

12月7、8日に「東京栄養サミット2021」が日本政府主催で開催されます。栄養の過剰と不足が同時に存在する「栄養不良の二重負荷」、高血圧や糖尿病といった非感染性疾患の予防、より強力な地球温暖化対策を含む食料システムの構築など、世界的な課題が議論される見込みです。各国の官民組織によるコミットメント（実践内容の誓約）などを通じ、「持続可能性」と「健康」をともに実現させる食生活について、国際的な取り組みの加速へ向けた機会ともなります。

そこでJミルクは、東京栄養サミットを前に、食を巡る「持続可能性」「健康・栄養」といった多面にわたる視点から課題や現状について考えようと、医学、栄養学、食料安全保障、乳研究などの専門家をお招きしてウェビナーを企画しました。

実は、いまの日本人の食生活は、世界的にも「持続可能で健康的な食」として高く評価され得るものです。「日本の『持続可能で健康な食』」について、専門家による報告や議論を通して、牛乳乳製品の価値も併せて、皆さまとともに考えたいと思います。

<ウェビナー概要>

- 日 時： 2021年11月30日（火） 15:00～17:30 予定
- 形 式： オンライン（Zoom）
- 主 催： 一般社団法人Jミルク
- 後 援： 独立行政法人農畜産業振興機構、公益社団法人全国学校栄養士協議会、公益財団法人学校給食研究改善協会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、日本酪農科学会
ほか申請中
- 主な参加対象： 国際機関、政府、地方自治体、国内研究者、管理栄養士・栄養士、医療関係者、学校給食関係者、大学生・院生、消費者、報道関係者、酪農乳業関係者など
- 参加申し込み： 事前登録必要（参加費無料）
事前登録はこちらから。
<https://www.j-milk.jp/news/2021sdgsfood.html>
（当日の定員は先着500名です）
- プログラム： ※内容は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
 - 15:00 主催者あいさつ
 - 15:05 報告「東京栄養サミットに向けた取り組み」
農林水産省大臣官房新事業・食品産業部新事業・食品産業政策課 松下 茜 課長補佐
厚生労働省健康局健康課栄養指導室 齋藤 あき 包括的栄養改善専門官
 - 15:25 プレゼンテーション
FAO 駐日連絡事務所 日比 絵里子 所長
国立がん研究センター社会と健康研究センター 澤田 典絵 室長
 - 16:05 休憩
 - 16:15 パネルディスカッション
モデレーター：
株式会社 office 3.11 代表取締役（食品ロス問題ジャーナリスト） 井出 留美 氏
パネリスト：
神奈川県立保健福祉大学 中村 丁次 学長（日本栄養士会会長）
東北大学名誉教授 齋藤 忠夫 氏
FAO 駐日連絡事務所 日比 絵里子 所長
国立がん研究センター社会と健康研究センター 澤田 典絵 室長

【お問い合わせ先】

Jミルク コミュニケーショングループ

TEL: 03-5577-7494 メール: info@j-milk.jp